

経営評価シート

1. 団体の基本的情報							
団体名	(公財)福岡県豊前海漁業振興基金			設立年月日	平成6年3月15日		
所在地	京都郡苅田町磯浜町1-2-6 豊前海水産会館2階						
出資総額	2,030,000千円			主な出資者	出資額	出資割合	
県出資額	1,235,000千円			北九州市	570,000千円	28.1%	
県出資割合	60.8%			本縣市町村	125,000千円	6.2%	
				漁協組合長会	100,000千円	4.9%	
設立目的等	福岡県豊前海の栽培漁業及び資源管理型漁業の推進等に関する事業を行い、豊前海漁業の振興と発展を図ることにより、地域漁業の経営安定向上と県民生活に不可欠な食料の安定供給に寄与する。						
現状の主要事業の内容							
事業名	事業内容						
栽培漁業の推進に関する事業	クルマエビ、ガザミ等の種苗購入、中間育成施設における育成及び放流に係る経費の助成並びに中間育成施設の改修経費を助成する。						
資源管理型漁業の推進及び先進的技術導入事業	抱卵ガザミの放流・小型魚の保護及び増養殖技術に関する研究活動、講習会の実施等に要する経費を助成する。						
漁業者の育成等に関する事業	漁協及び漁協青壮年部が実施する技術講習会等に要する経費を助成する。						
事業実績に関する情報	単位	H28	H29	H30	R1	R2	備考
種苗中間育成放流助成金	千円	19,976	24,292	24,062	22,195	29,082	
資源管理型漁業推進助成金等	千円	4,749	4,049	4,240	4,133	3,537	
漁業者の育成等に関する事業	千円	13,088	14,517	12,517	12,094	8,470	
2. 団体の組織・人員情報							
代表者名	理事長 筑紫 康博			区分	県OB		常勤
常勤役員名	-			区分	-		
	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	
常勤役員数(※)	1名	1名	1名	1名	1名	1名	
職員数	常勤(正規)	1名	1名	1名	1名	1名	
	うち プロパー	-	-	-	-	-	
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	-	-	-	-	-	
	合計	1名	1名	1名	1名	1名	
増減の主な理由							
増減なし							
3. 県関与の状況							
人的支援 (常勤役職員再掲)(※)	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	
県派遣	-	-	-	-	-	-	
県OB	1名	1名	1名	1名	1名	1名	
財政支出	H28	H29	H30	R1	R2	備考	
出資金	-	-	-	-	-	-	
貸付金	-	-	-	-	-	-	
補助・負担金	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	-	
委託料	-	-	-	-	-	-	
4-①. 中期経営計画における改善に向けた取り組みの方向性(H29～R3)							
安全確実性を重視し有価証券を運用しつつ、安定的な収入の確保及び管理経費の節減を行い、着実に豊前海の振興のための各種事業を実施する。							

※役員改選を理由とする年度当初の一時的な減は、反映していない。

4-②. 中期経営計画における改善目標の達成状況

改善目標の区分(視点)	目標達成に向けた具体的な取組、戦略等	指標	単 位	上段:計画 下段:実績						改善目標区分の達成に向けた2020年度(R2)の取組状況
				2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	
事業活動・住民サービス (計画性 公益性 等)	①種苗の中間育成及び放流事業等に助成して栽培漁業を促進する。	種苗中間育成放流助成金	千円		23,000				23,000	・保有する有価証券を安全性のある国債、地方債等で運用しており、市場の動向を注視しながら運用益の確保に努めた結果、各事業を着実に実施することができた。 ・「種苗中間育成放流」について、中間育成施設の老朽化に伴う改修工事に係る経費への助成を実施したため、計画を上回った。 ・「資源管理型漁業推進事業の先進地視察研修及び魚食普及活動等」及び「漁業者の育成等事業の技術者交流会、先進地交流研修会」について、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となり、計画を上回ることができなかった。
	②資源回復計画推進事業、漁業先進的技術導入事業等に助成して、資源管理型漁業及び先進的漁業の推進を図る。	資源管理型漁業推進事業費助成金等	千円		4,000			4,000		
	③豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等に助成して、若年漁業者の技術、知見の向上を図る。	漁業者の育成等に関する事業	千円		13,000			13,000		
	④豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等の参加者を確保する。	参加率	%		60			70		
財務会計 (経済性 効率性 等)	①厳しい金融情勢の中で、可能な限り収益確保に努め、県財政支出率等の増加を最小限に抑える。	県財政支出率	%		19.2			19.2	・基本財産で保有する全ての有価証券をより安全・確実な国債、地方債等へ買い換えているため、利息収入は低迷しているが、有価証券の売却益により事業収入を確保し、県財政支出率、人件費率の抑制に努めた。	
		人件費率	%		35.2			35.2		
	②安定的な基金の運用に努める。	基本財産平均運用利率	%		0.9			0.9		
			%		0.9	0.8	0.9	0.8		0.9
内部管理 (健全性 等)	①信頼性、透明性を向上させる。	外部専門家の監事への登用	-		実施				実施	・平成25年4月公益財団法人移行と同時に、代表者を常勤役員とし、外部有識者(税理士)を監事に登用するなど、役員の新体制を整備しており、令和2年度も継続して体制を確保している。
			実施	実施	実施	実施	実施			
	②基本財産の運用を担当する役職員の専門知識を向上させる。	債権等金融商品に関する研修会への参加	-		実施				実施	
			実施	実施	実施	実施	実施			
達成状況(まとめ)		<p>令和2年度も引き続き、保有する国債等の有価証券について、安全確実性を重視しつつ市場の動向を注視し効率的な運用に努め、安定的な収入を確保し豊前海の漁業の振興のための各種事業を展開することができた。</p> <p>また、平成25年4月1日からの公益財団法人への移行にあわせて、代表者を常勤役員とし、外部有識者を監事へ登用するなど役員体制を整備するとともに、平成20年公益法人会計基準を導入しており、令和2年度も引き続き、公益法人の適切な運営に努めた。</p>								

5. 経営状況(公益法人)							
項目	単位	H28	H29	H30	R1	R2	
【貸借対照表】							
資産合計	千円	2,299,963	2,483,067	2,565,400	2,538,494	2,440,984	
うち金銭債権	千円	247	247	247	247	247	
うち特定資産	千円	220,000	225,358	234,975	233,413	238,409	
負債合計	千円	224	295	281	245	200	
うち借入金額	千円	-	-	-	-	-	
うち県からの借入金額	千円	-	-	-	-	-	
正味財産合計	千円	2,299,739	2,482,772	2,565,119	2,538,249	2,440,784	
県債務保証額又は損失補償額	千円	-	-	-	-	-	
県損失補償債務残高	千円	-	-	-	-	-	
団体債務保証額	千円	-	-	-	-	-	
【正味財産増減計算書】 Sheet4 法人全体より転記							
経常収益 A	千円	30,711	31,147	56,459	55,032	56,295	
うち県財政支出額 B	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	
内訳:補助負担金	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	
内訳:委託料	千円	-	-	-	-	-	
うち最も多額な項目	項目名	基本財産受取利息	基本財産受取利息	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額	
	千円	19,042	18,667	25,170	25,000	24,503	
経常費用 C	千円	52,986	58,775	56,433	54,901	56,020	
うち人件費総額 D	千円	11,133	11,165	11,627	11,428	11,185	
評価損益等合計額 E	千円	-	38,343	7,445	△ 4,162	4,996	
経常増減額 F=(A-C+E)	千円	△ 22,275	10,715	7,471	△ 4,031	5,272	
経常外損益 G	千円	24,272	△ 14	-	-	-	
法人税、住民税及び事業税 I	千円	-	-	-	-	-	
当期一般正味財産増減額 J=(F+G)-I	千円	1,997	10,701	7,471	△ 4,031	5,272	
当期指定正味財産増減額 K	千円	-	172,332	74,875	△ 22,839	△ 102,737	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	
【財務指標】							
正味財産比率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
県財政支出率 (=B/A)	%	19.9	19.6	10.8	11.1	10.8	
人件費率 (=D/A)	%	36.2	35.8	20.6	20.8	19.9	
収益事業比率	%	-	-	-	-	-	
受託事業外注費比率	%	-	-	-	-	-	
【団体毎の経営評価指標】							
基本財産平均運用利率	%	0.9	0.8	0.9	0.8	0.9	
【常勤役職員の報酬・給与に関する状況(R2年度)】							
常勤役員平均年齢	69.0歳	常勤役員平均年収	6,100千円	常勤職員平均年齢	69.0歳	常勤職員平均年収	3,780千円
【経営状況に関する各数値、指標の増減理由】							
平成30年度より、保有する国債等有価証券の評価方法を取得原価から時価評価に変更した。そのため相場の変動により正味財産増減額が、前年度末の時価との比較で大幅な減となっている。							
6. 団体(経営責任者)の自己点検評価							
基本財産で保有する有価証券をより安全性の高い国債・地方債等で運用し、利息収入や有価証券の売却益により、事業実施に必要な収入を確保した。その結果、豊前海の漁業振興のための各種事業を展開することができた。							
7. 外部専門家の意見							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本財産等の運用利回り及び運用収入は前年度から増加している。引き続き、各種事業の精選や管理経費の節減等に取り組み、持続可能な経営に取り組むことが求められる。 ・ 運用財産の一部については、元本割れのリスクのある銘柄で運用されており、厳格なリスク管理が必要である。 ・ 団体が行う助成事業について、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け事業の一部を中止しており、中期経営計画における改善目標を達成しているのは4項目中1項目となっている。事業終了時に実施している評価を踏まえ、引き続き事業の公益性の確保に努める必要がある。 							
8. 経営評価委員会による経営評価結果							
<p>基本財産で保有する全ての有価証券を安全確実性のある国債・地方債等で運用しているため利息収入は減少しているが、有価証券売却益により収入を確保し、栽培漁業推進事業、資源管理型漁業推進事業をはじめとする各種事業を着実に実施し、豊前海漁業の振興に寄与した。</p> <p>しかしながら、基本財産の運用収入が減少している状況を踏まえ、基本財産の安全かつ効率的な運用や、管理経費の節減に努め、必要に応じ事業内容を検討していくことが求められる。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響で中止となった事業により目標達成できなかった助成事業については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮した実施方法等の検討が求められる。</p>							

(注)表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。

5-②. 経営状況(内訳表)							
項目	単位	H28	H29	H30	R1	R2	
【正味財産増減計算書】							
法人全体 (①)~(③)	経常収益 A	千円	30,711	31,147	56,459	55,032	56,295
	うち県財政支出額 B	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
	内訳:補助負担金	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
	内訳:委託料	千円	-	-	-	-	-
	うち最も多額な項目	項目名	基本財産受取利息	基本財産受取利息	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額
		千円	19,042	18,667	25,170	25,000	24,503
	経常費用 C	千円	52,986	58,775	56,433	54,901	56,020
	うち人件費総額 D	千円	11,133	11,165	11,627	11,428	11,185
	評価損益等合計額 E	千円	-	38,343	7,445	△ 4,162	4,996
	経常増減額 F=(A-C+E)	千円	△ 22,275	10,715	7,471	△ 4,031	5,272
	経常外損益 G	千円	24,272	△ 14	-	-	-
	法人税、住民税及び事業税 I	千円	-	-	-	-	-
	当期一般正味財産増減額 J=(F+G)-I	千円	1,997	10,701	7,471	△ 4,031	5,272
当期指定正味財産増減額 K	千円	-	172,332	74,875	△ 22,839	△ 102,737	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	
公益目的 事業会計①	経常収益 A①	千円	29,242	28,867	53,214	50,637	53,091
	うち県財政支出額 B①	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
	内訳:補助負担金	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
	内訳:委託料	千円	-	-	-	-	-
	うち最も多額な項目	項目名	基本財産受取利息	基本財産受取利息	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額	受取補助金等振替額
		千円	19,042	18,667	25,170	25,000	24,503
	経常費用 C①	千円	50,314	55,499	53,231	50,822	53,210
	うち人件費総額 D①	千円	9,330	9,357	9,509	9,588	9,383
	評価損益等合計額 E①	千円	-	33,944	-	-	-
	経常増減額 F①=(A①-C①+E①)	千円	△ 21,073	7,312	△ 16	△ 185	△ 119
	経常外損益 G①	千円	22,500	-	-	-	-
	他会計振替額 H①	千円	-	-	-	-	-
	法人税、住民税及び事業税 I①	千円	-	-	-	-	-
当期一般正味財産増減額 J①=(F①+G①+H①)-I①	千円	1,427	7,312	△ 16	△ 185	△ 119	
当期指定正味財産増減額 K①	千円	-	172,332	74,875	△ 22,839	△ 102,737	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L①	千円	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	
収益事業 等会計②	経常収益 A②	千円	/	/	/	/	/
	うち県財政支出額 B②	千円	/	/	/	/	/
	内訳:補助負担金	千円	/	/	/	/	/
	内訳:委託料	千円	/	/	/	/	/
	うち最も多額な項目	項目名	/	/	/	/	/
		千円	/	/	/	/	/
	経常費用 C②	千円	/	/	/	/	/
	うち人件費総額 D②	千円	/	/	/	/	/
	評価損益等合計額 E②	千円	/	/	/	/	/
	経常増減額 F②=(A②-C②+E②)	千円	/	/	/	/	/
	経常外損益 G②	千円	/	/	/	/	/
	他会計振替額 H②	千円	/	/	/	/	/
	法人税、住民税及び事業税 I②	千円	/	/	/	/	/
当期一般正味財産増減額 J②=(F②+G②+H②)-I②	千円	/	/	/	/	/	
当期指定正味財産増減額 K②	千円	/	/	/	/	/	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L②	千円	/	/	/	/	/	
法人会計③	経常収益 A③	千円	1,469	2,281	3,245	4,395	3,205
	うち県財政支出額 B③	千円	-	-	-	-	-
	内訳:補助負担金	千円	-	-	-	-	-
	内訳:委託料	千円	-	-	-	-	-
	うち最も多額な項目	項目名	特定資産受取利息	特定資産受取利息	基本財産受取利息	基本財産受取利息	基本財産受取利息
		千円	1,467	2,278	2,061	3,050	1,860
	経常費用 C③	千円	2,671	3,276	3,202	4,079	2,810
	うち人件費総額 D③	千円	1,803	1,808	2,118	1,841	1,802
	評価損益等合計額 E③	千円	-	4,399	7,445	△ 4,162	4,996
	経常増減額 F③=(A③-C③+E③)	千円	△ 1,202	3,403	7,488	△ 3,846	5,391
	経常外損益 G③	千円	1,772	△ 14	-	-	-
	他会計振替額 H③	千円	-	-	-	-	-
	法人税、住民税及び事業税 I③	千円	-	-	-	-	-
当期一般正味財産増減額 J③=(F③+G③+H③)-I③	千円	570	3,389	7,488	△ 3,846	5,391	
当期指定正味財産増減額 K③	千円	-	-	-	-	-	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L③	千円	-	-	-	-	-	

(注)表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。